

\* 2025 年度以前に履修登録された GA27（教養としての音楽史入門）とは別科目になりますのでご注意ください

教養教育科目 講義科目

授業科目名	教養としての音楽史入門	科目コード	配当年次	単位
担当教員	中村 真由子	GA83	1	2
<b>科目の概要</b>				
<p>音楽は、文化という大きな営みの一部として存在する。音楽が常に特定の時代や地域の文化と不可分の関係で存在していることから、西洋音楽史を学ぶときには、社会・経済・政治・文化・哲学など、様々な歴史に照らして学習することが重要である。</p> <p>本科目では、テキストの各章最初に概説している「時代と社会」で各々の時代背景を押さえ、それに続く「音楽史の流れ」「コラム」「知っておきたい音楽用語」と作曲家の解説において、形式・様式と技法・メディア（演奏媒体）・ジャンル・地域（楽派）・作曲家論・記譜法といった様々な観点から音楽史を学んでいく。さらに、「聴いておきたい名曲」で挙げられている曲を、CD やインターネット等を通して聴いておくことが望ましい。意外にも我々が生きる現代社会において、西洋音楽が身近なものであることに気づくであろう。</p>				
<b>科目の到達目標</b>				
<p>①音楽史の基本的流れを押さえ、各々の時代にどのような音楽家および作曲家が活躍し、いかなる作品が作られたのか理解できる。</p> <p>②各作曲家の作品が作られた時代背景を踏まえたうえで、時代ごとに提示された名曲を聴きながら、曲ごとの音楽的特徴と作曲家が活躍した時代の音楽様式を理解することができる。</p>				
テキスト	『[増補改訂版]音楽史を学ぶ-古代ギリシアから現代まで-』久保田 慶一 他, 教育芸術社, 2024 年			
<b>テキストの読み方</b>				
<p>テキストでは、西洋音楽の歴史が古代から現代まで記され、さらに、明治から令和までの日本における西洋音楽の受容と発展の歴史が述べられている。学習するにあたっては、まず西洋音楽史が「古代・中世・ルネサンス・バロック・古典派・ロマン派・現代」の7つの時代に区分されることを把握し、つぎに時代ごとの音楽史の概要を押さえる。そのうえで、以下4点に留意して学習を進める。</p> <p>①各時代における音楽様式の特徴を捉える。</p> <p>②各時代を代表する作曲家の生涯と作品を確認する。</p> <p>③作曲家ごとの音楽作品の特徴と位置付けをみていく。</p> <p>④実際に音楽作品を聴いて、時代ごとの全体的な雰囲気把握する。</p>				
<b>単位修得の方法</b>				
<p>①レポート課題を提出し、60点以上であれば合格となり、科目修得試験を受験できる。科目修得試験の得点が60点以上であれば合格となり、評価が確定し、2単位を修得できる。</p> <p>または、</p> <p>②スクーリングを受講し、合格すれば2単位を修得できる。この場合、レポート課題の提出と科目修得試験の受験は不要。</p>				